平成２３年度　　教育委員会点検・評価報告書　　教育総務部　教育指導課

基本方針	①　共に学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します		
施策の柱	⑤　一人ひとりのニーズに対する教育の推進		
実施事業名	３　不登校児童生徒対策事業		
当初予算額	９００　千円	執行額	７４８　千円
予算現額	９００　千円	執行率	８３　％

１．目的

不登校や不登校傾向の児童生徒及び保護者を対象に各種の取り組みを行うことにより、不登校児童生徒の自己肯定感を高めるともに、学校復帰への支援を行う。

２．平成２３年度の取組みの概要

・各学校における月１回の長期欠席調査の実施と報告集計
・関係機関との連携協力、学校教育相談センターでの相談支援の実施
・藤沢市八ケ岳野外体験教室を中心に据えた宿泊プログラムを年２回実施
・不登校児童生徒保護者への相談機会を年３回提供

３．進捗状況

・各学校からの長期欠席報告については、学校ごとに集計を行い必要に応じて学校と連絡をとりあい、状況把握につとめるとともに、適切な支援や指導を行った。
・関係機関や学校教育相談センターとは定期的に情報交換を行った。
・不登校児童生徒を対象とした「ふれあいキャンプ」を年に２回、２泊３日で実施した。
・不登校児童生徒の保護者を対象とした相談会「おしゃべり広場」を年に３回実施した。

４．効果・成果

・長期欠席の調査を行うことによって不登校が心配される児童生徒に対して早期対応ができ、効果があった。
・各機関や学校教育相談センターと連携をとり、必要な情報を共有し、対応へつなげることができた。
・ふれあいキャンプでは、自然の中での体験活動を通して、人と人との関係性を育み、コミュニケーション能力や行動力の向上へつなげることができた。
・不登校相談会においては、日頃保護者が悩んでいることや困っていることなどを共有したり、新しい情報を提供したりすることで、保護者の精神的なサポートができた。

５．課題・問題点

ふれあいキャンプについては児童生徒が参加しやすいプログラムの検討や、学校、家庭への周知方法が課題である。おしゃべり広場については、参加した保護者には有意義なものとなったが、参加人数や開催の日程、会の進め方等については課題が残った。

６．課題・問題点に対する今後の対応

ふれあいキャンプについては、宿泊を１泊にすること、市内での準備プログラムを取り入れることで、さらに多くの児童生徒が気軽に参加できるようにしていく。おしゃべり広場についても、さらに多くの保護者が参加できるよう、周知方法を検討していく。また、このほかにも関係機関や長期欠席調査と連携させながら、様々な取り組みを工夫して行っていく必要がある。